# 千里の道も一歩から

代表取締役社長　安永　暁俊

いよいよ新年度が始まりました。今年は32名の新入社員を迎え入れ、大変うれしく思っています。新たな仲間が加わり、心機一転、全社一丸となって業務に邁進（まいしん）していきましょう。

新年度にあたり、『千里の道も一歩から』との主題にしました。辞書によると、〝千里もある遠い道のりであっても、まず踏み出した第一歩から始まるという意味〟〝どんなに大きな事業でも、まず身近なところから着実に努力を重ねていけば成功するという教え〟とあります。

会社は大きな事業を成し遂げることを目標としていますが、『千里の道』はあくまでも『一歩』ずつの積み重ねであり、結果としてついてくるものです。では、重要な意味を持つ一歩、とりわけ、仕事の上での一歩とは何でしょうか？

普段行っている業務を違う見方でもって、客観的に見直してみる、これが仕事の上での一歩となります。新たな気持ちで日常業務を見直してみると、「これをこうしたら良いのにな」「これはムダでもったいないな」「こう考えたらどうかな」という疑問がいくつも出てくると思います。

そこに、新しいことを見つけた『楽しさ』が出てきます。この場合の楽しさとは、日常の娯楽によるものとは異なります。仕事上の『楽しさ』とは、興味を持ち、それに突き動かされることです。新たな視点での興味が『一歩』の大きな後押しとなるのです。

皆さんのそうした小さな気づきや小さな一歩が、千里の道＝将来の大きな成果につながります。安永の先人、先達が取り組んできた無数の一歩が、今の安永の土台となっているのです。

私達の先輩がどういう道をたどって来たのか、創業時の様子から今までの歩みを、50年史から振り返ってみたいと思います。

創業当時を想像するに、経営基盤も脆弱（ぜいじゃく）な町工場という不利な面や、交通手段も乏しい三重県伊賀上野という立地上の不便さもある中で、会社の先人や先達が、何とか商売につなげようと試行錯誤（しこうさくご）しながら道を切り開いていった。それが今日の安永の事業につながっています。その中から二つの大きな歩みを紹介したいと思います。

## ミシンアームベッド加工からの一歩

一つ目は、創業間もない頃から主力であったミシンのアームベッド加工から、新規事業への移り変わりです。当時、1947年から始まったミシンアームベッド加工は順調に生産を拡大し、63年には累計300万台を突破、66年には国内シェア20％、生産全国1位を達成することができました。今で言う、『ニッチNo.1』です。

一方、それに甘んずることなく、経営基盤を更に強固なものとするよう、1959年頃から新規事業への取り組みを始めます。そこから生まれたのが、自動車部品事業や工作機械事業であり、今では会社の大きな柱に育っています。

時代はその後、ミシンの軽量化・コンパクト化が進み、市場ではアルミダイキャスト製が台頭、アジアでの生産の追い上げもあり、鋳物のミシン産業が衰退していったことはご存知のとおりです。

安永も1972年には事業撤退を決意し、74年に生産・販売を中止しました。その間、様々な議論が戦わされ、多くの苦悩や葛藤もあったことと思います。しかしながら、勇気ある撤退と新しい挑戦によって、今日の安永への道をつなげることができたと私は感じています。その後、ミシン時代に蓄積した優れた生産技術、機械製造技術、量産加工技術を基盤として、次代の製品に積極的に取り組むこととなりました。

振り返るに、事業開始から20年ほどかけてようやく日本一になったものの、その僅か6年後には撤退を決断せざるを得ない。もし、いつまでもミシン事業の将来を闇雲（やみくも）に信じて、新しい一歩を踏み出していなかったら、会社はどうなっていたでしょうか？

私はこの挑戦を大きな教訓として受け止めるべきと感じています。既存の事業や仕事がいつまでも続くとは保障されていません。我々一人一人が今あるものに甘えたり依存したりするのではなく、常に新しい仕事の仕方や事業創造を意識して取り組んでいくべきではないか。コアとなる技術は着実に継承しながらも、新しいことに恐れず挑戦していく、変化を恐れない、一歩を踏み出していく社員になってほしい。

安永の歴史を紐解いて、その大切さをしみじみと噛み締めました。

## 自社製品誕生への一歩

二つ目は、自社製品の誕生です。ミシンのアームベッド加工が年々先細りとなる中、それまで培ってきた技術を活かすべく、自社製品の開発にも挑戦していきます。

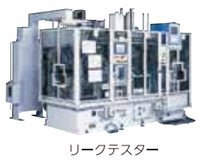
50年史に記載のある自社製品を開発順に並べると、ロータリーブロワや電磁式エアーポンプ、ワイヤソー、バッテリーフォークリフト、車検自動ライン、一軸NCコントローラ、ステップリフト、自動墨摺（すみす）り機、レーザー式検査機、ラップ盤、VB門型マシニングセンター、ラッシュアジャスター内蔵高圧油圧ポンプ、ラッピングマシン、リークテスター、C／R加工設備ターンキーライン、一軸NCセル、ディスポーザー、オゾナイザー、グリスセパレーター等々、数多くありすぎて全て書き出しきれません。

ミシンアームベッド

ワイヤソー

自動墨摺り機

門型マシニングセンター



リークテスター

ディスポーザー

ロータリーブロワ

車検自動ライン

レーザー式非接触二次元うねり測定装置

小型超高圧油圧ポンプ

コンロッドターンキーライン

オゾナイザー

電磁式エアーポンプ

自走式作業台「ステップリフト」

スーパーフィニッシュ（高精度ラップ盤）

ラッピングマシン

1軸NCセル

グリスセパレーター「ぶくぶく」

この中には、皆さんの知らない製品も数多くあるのではないでしょうか？現在の主力となった製品もあれば、残念ながら消えてしまった製品もあります。

挑戦するからには、当然のことながら失敗もついて回ります。でも、それを恐れていては、次の一歩が踏み出せなくなってしまいます。

## 千里の道も一歩から

私は、これら先輩が残してくれた足跡（そくせき）を見る度に誇らしい気持ちになります。ここには、多くの成功と多くの失敗の経験や体験が詰まっているからです。これらを糧（かて）に先輩が大きくなっていき、会社を引っ張っていったからこそ今の安永があります。恐れずに踏み出した『一歩』が、文字通り『千里の道』に通じたのです。

過去の歴史の中から大きな足跡を振り返りましたが、当然のことながら、業務改善や業務改革という身近で小さな一歩は、数限りなく実践され達成されてきました。そこへの想いも巡ります。全社員が一歩一歩踏み出し続けるから、会社は今日まで存続しているのだ、と。

ぜひ、皆さんも先人に習って、現状にとどまることなく、小さな創意工夫、毎日の革新、興味の追及を積み重ねることを続けてください。

新しい一歩を踏み出し続けるのは、勇気がいることです。上司の皆さんは、部下が一歩踏み出しやすい環境作りを心がけてください。部下の皆さんは、自分が考えている一歩を、上司に相談しながらしっかりと踏み出してください。